

JACET-Kansai Newsletter

No. 37 April 27, 2007

Chapter President: 木村博是 (Hiroshi Kimura, Kinki University)

JACET-Kansai Office: 〒522-8533 彦根市八坂町 2500 滋賀県立大学 小栗裕子研究室

(Yuko Oguri, The University of Shiga Prefecture, 2500 Hassaka-cho, Hikone-city 522-8533)

Tel: 0749-28-8252 Fax: 0749-28-8619 E-mail: yoguri@ice.usp.ac.jp URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

Postal Account : 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部 (Daigaku Eigo Kyoiku Gakkai Kansai Shibu)

授業の横道—異文化に触れて—

支部長 木村博是

新学期が始まりました。新入生の希望に満ちた顔に接すると、私たちもまた新しい気持ちで良い授業をしなければ、という気になります。しかし新しい科目を担当したり、マンネリ化した授業方法から脱出し、質の高い授業をするためにどうしたよいか、立ち止まり思案している先生方もおられるでしょう。そのような場合に、まさに羅針盤の役目をしてくれる『高等教育における英語教育の研究—授業実践事例を中心に』(大学英語教育学会 授業学研究委員会) 松柏社(2007) が出版されました。英語教員にとって待望の座右の書です。

学生の多様化や学習意欲の格差拡大のなか、予習すらしてこない学生も多く、成績上位者とそうでない者の学習時間の差は広がっています。そこでこれまで以上に、学生に対する支援として授業の工夫が求められています。この本は、大学の英語授業を実践事例に基づいて分析・考察し、その主要な問題を取り上げて解説しています。中には授業の達人の方もおられますが、それぞれの実践事例を見て共通しているのは、いずれもが90分の授業を工夫して小気味良く展開し、十分に準備して授業に臨んでいることです。そしてそのことが、学生のやる気を起こさせ、学習効果を上げていることです。大いに参考になると思います。

ところで、英語コミュニケーション能力の向上に向けて展開される英語教育は、また国際的な視野の涵養など、学生の人格形成にも資するべきものであります。授業の中で本筋から離れて、チョッと横道に入る「ゆとり」も必要かと思えます。教員が自ら体験した異文化を語ったり、人生を語ったりして自分をさらけ出すことが、学生たちに感動を与え、人間作りのきっかけを与えるからです。

この春休みに海外へ出かけた先生方もおられると思います。最近、ORICON STYLE が「海外旅行に行ったら良かった国」で、1位アメリカ、2位イタリア、3位オーストラリアというリサーチ結果を発表していました。エネルギーな大都市や一流のエンターテイメントで魅力溢れるアメリカ、ヨーロッパの中でも世界遺産を多く抱える魅力的な街が多いイタリア、それぞれ人気の理由がわかります。ではオーストラリ

アは、何が日本人を魅了するのでしょうか。

オーストラリアは日付変更線を越えないため、1-2時間と時差が少なく、体調への影響も気にしなくてよいことや、比較的治安がよいことが挙げられます。また基本的にはヨーロッパの文化を受け継いでいるにもかかわらず、チップ制度がないこと、車の左側通行、時間通り正確に動く公共交通機関なども、私たちになじみやすいものです。

ただし、タクシーの乗り方はユニークです。アメリカやイギリスでは、日本と同じく後部座席に座りますが、オーストラリアではドライバーの隣に座るのが原則です。もし後部座席に座ればよそよそしい感じを与え、ドライバーに対して失礼になります。1人で乗るときは必ず助手席、複数で乗るときも1人は助手席に座るのが習慣です。そして乗車中は、できるだけドライバーと会話することが礼儀です。ドライバーが、日本のことを意外によく知っていることに驚かされたり、オーストラリアに移住してきた理由を聞くことができたりして、移民の国オーストラリアの一面を垣間見ることができます。

また、目的地へ向かう途中、他の乗客がタクシーを呼び止めると、ピックアップすることもあります。その場合、見知らぬ人と相乗りすることになり、会話するのは少々緊張しますが、いったん慣れると、これも楽しみの一つになります。ともあれ、運賃は同乗の人と割り勘になり、安上がりになるのがうれしいです。授業の中で、このようなチョットした話をする、学生が異文化に触れるチャンスを得て、英語を学ぶ意欲も高まるのではないのでしょうか。

授業展開はドラマの構成と同じです。息詰まるシーンばかりでは息が詰まります。緊張感はそれほど長くは持続しないからです。ドラマでは緊張と弛緩が大切であると言われますが、とりわけこの弛緩が難しく、下手をすると徒労に終わったり、間延びしてしまふこととなります。つまり、授業でも緊張と弛緩が交互に心地良く与えられると、すばらしいハーモニーが生み出され、良い授業になります。

単調にならないように切れ味鋭い内容の緊張と、適度の弛緩をうまく織りなし、メリハリのある90分を構成することで、学生の英語力に合わせた密度の違うさまざまな授業展開が可能です。時には横道に入り、

脱線しながらも本来の内容へとつなげていく工夫をすれば、学生の学習意欲を引き出すだけでなく、ひいては学生たちの人格形成に資することになると思います。

JACET 共催

PALA (Poetics and Linguistics Association)

年次大会開催のお知らせ

テーマ：Style and Communication

期間：7月31日-8月4日

場所：関西外国語大学中宮キャンパス（枚方市）

招聘講師：Professor Geoffrey Leech (University of Lancaster, UK), Professor Yoshihiko Ikegami (Showa Women's University, Japan), Professor Andreas H. Jucker (University of Zurich, Switzerland), Professor Sylvia Adamson (University of Sheffield, UK)

参加費：PALA 会員 30,000 円、非会員 35,000 円、学生 15,000 円（レセプション、チーズアンドワイン、ランチ、資料代含む）

30 数カ国・地域から 130 名の発表者が参集する予定。

なお、7月29-30日には Pre-conference Workshop, 'Corpus studies: methods and applications' が同じ会場で開催される。

招待講師：Professor Geoffrey Leech (Lancaster, UK), Professor Mick Short (Lancaster, UK), Professor Lisa Lena Opas Hanninen (Oulu, Finland), Dr Martin Wynne (Oxford, UK)

参加費：10,000 円、学生 7,000 円（ランチ、資料代含む）

問い合わせを含む詳細は以下のホームページ <http://www.pala2007.com/> をご参照ください。

* 春季大会のご案内 + 懇親会へのお誘い *

春季大会が、6月2日（土）10時より18時まで関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにて開催されます。午前中はワークショップが2件、午後は研究発表が6件と実践報告が3件予定されています。3時からの総会では、本年度の活動予定や予算案について、支部紀要の毎年発行、それに伴う紀要投稿規定の改正等が議題に上りますので、ぜひご出席ください。

最後はシンポジウムです。「外国語を科学する」と題して言語獲得、脳の働き、認知・心理学的立場から4名のパネリストにお話していただきます。詳細につきましては、同封のプログラム及び発表要旨をご覧ください。

懇親会は18時より大学近くの「時遊空館」にて開かれます。ノンアルコールをご希望の皆さんとアルコール有り（主にBeer）をご希望の皆さんのそれぞれのご希望にお応えできる形になっております。ノンアルコールは3,000円、ビール込みは4,000円、学生割引もあります。会員の皆様には、事前に同封の振替用紙にて

申し込みくださいますようお願いいたします。

詳しくは、プログラムの「懇親会」欄をご覧ください。尚、事前申し込みの締め切りは5月18日（金）です。

献本の紹介

以下の研究会より事務局に献本をいただきました。

- ・ 英語辞書研究会：『*English Lexicography in Japan*』 (Taishukan Publishing Company, 2006)
- ・ 授業学研究委員会：『高等教育における英語授業の研究—授業実践事例を中心に』 (松柏社、2007) 以下の他支部等より紀要をお送りいただきました。
- ・ The JACET Kyushu-Okinawa Chapter：『*Annual Review of English Learning and Teaching*』 No.11.
- ・ 北海道支部：『*Research Bulletin of English Teaching*』 No.4.
- ・ 中国・四国支部：『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』第4号
- ・ 近畿中・高・大英語教育連絡協議会：『研究紀要』 <21世紀に求められる英語教育のあり方>
- ・ 関西大学大学院外国語教育学研究科紀要：『千里への道』第5号
- ・ 東北支部：『東北支部通信』 <追悼 東北支部長 千葉元信先生>

JACET名簿の変更手続き方法のご案内

会員名簿上で記載の変更がある場合は、下記の大学生協学会支援センターへ直接お届けください。

E-mail : jacet@univcoop.or.jp

Fax: 03-5307-1196

紀要編集委員会より

『JACET関西紀要』第9号を同封いたしましたので、ご一読下さい。今回の第9号には論文6編の応募がありました。そのうちの1編は締め切り後に到着したため、投稿規定に従い、審査対象からははずしました。各論文につき、2名ないし3名の査読委員に依頼し、originalityなど4つの項目で評価をお願いしました。委員会の方針として、査読委員のコメントを勘案しつつ、その評点の平均が満点の6割を超えるものを採択することに決定しました。審査の結果、3編がその条件を満たし、査読委員・編集委員のコメントに基づき投稿者が加筆・修正を施した論文が掲載されています。

今年度から新しい投稿規定になる予定です。詳細につきましては、次号でお知らせいたします。留意の上、奮ってご応募下さい。なお、現在の編集委員会は次号10号の編集とともに交代することになっています。